

令和6年度 学 校 評 価 自 己 評 価 表 （ 最 終 ）

東広島市立高屋東小学校

学校教育目標	夢に向かう 豊かな学び	将来への夢や志をもち、主体的に生きる力を育成する。 ・児童が高屋東小学校で学ぶことを誇りとし、将来への夢と志をもって意欲的に取り組む学校 ・教職員が高屋東小学校の教職員としての誇りをもって取り組み、資質・能力、専門性を向上できる学校 ・教師力・学校力を高め、保護者・地域から信頼される学校	
--------	-------------	---	--

	評 価 計 画				自 己 評 価				学 校 運 営 協 議 会 評 価		改 善 方 策
	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標・目標値	10月 達成値	2月 達成値	達成 度	評価	結果と課題の分析（○成果▲課題）	評価	コメント	
確かな学力	◎主体的に学ぶ児童の育成	・ドリルタイム、読書タイム、家庭学習の計画的・継続的な実施	・算数、国語の単元末テスト平均正答率が80%以上（単元末テスト結果） ・各種学力調査結果全国平均以上（標準学力調査・全国学力学習状況調査結果等） ・家庭学習を毎日やりきる児童が90%以上（担任による現状把握） ・貸出冊数年間20冊以上の児童の割合が80%（図書貸出システム結果）	85%	80%	102%	A	○国語科の知識・技能、思考・判断・表現、算数科の知識・技能においては目標達成できていた。 ▲算数科の思考力・判断力・表現力においては、平均達成率が74%であった。知識・技能を高める取組を継続していくとともに、「なぜそう考えたのか」など、児童がより深く考えることができるよう、今以上に授業改善に取り組んでいきたい。 ▲NRT標準学力調査の学校標準偏差値は国語48.9、算数47.4であった。 ○全国学力・学習状況調査結果は全国平均正答率を国語は上回っていた(全国比+0.3)。 ▲全国学力・学習状況調査結果は全国平均正答率を算数は下回っていた(全国比-2.4)。 ▲CRT標準学力調査の国語の学校標準偏差値は49.1であった。 ○CRT標準学力調査の算数の学校標準偏差値は51.5であった。 ○家庭学習を毎日やりきる児童は96%で目標を達成することができた。基礎学力の定着のためにこれからも引き続きやりきる指導を行う。 ○貸出冊数年間20冊以上の児童の割合が80%達成した。6年生は総合表現の練習期間に図書室利用するのが難しいが全員貸し借りしていた。 ▲学年によりばらつきがある。学校司書がいる時に積極的に行くことやテスト直しが終わった児童から図書室の本を借りて読むなど計画的な利用を求めたい。	4	○家庭学習の習慣化が高く なっているのは良い傾向である。 ○全国学力・学習状況調査結果で算数が全国平均を下回っている理由を分析し、県平均・市平均も上回ってほしい。	○引き続き授業改善に取り組んでいく。 ○基礎学力の定着のために、家庭学習をやるきる指導を継続する。 ○図書室の本の利用を積極的に進める。
	○主体的・対話的で深い学びのある授業の創造	・授業改善（研究授業の学び）を他の教科に生かす ・計画的な「総合的な学習の時間」（生活科）の実施	・児童の主体性・意欲を引き出す授業を行うことができる教職員が90%以上（教職員意識調査） ・授業がよく分かると感じる児童が90%以上（児童意識調査）	100%	100%	108%	A	○教職員意識調査では、すべての教職員が取り組んでいると回答した。しかし、日々の授業で継続的に主体性・意欲を引き出す授業を行うことができているわけではない。教材研究の時間が十分に確保できないために行うことができているためと考えられる。 ○授業がよく分かると回答した児童は中間に引き続き90%を超えていた。 ▲学級全員がよく分かると感じているのは、一部であり多くの学級で授業がよく分かると感じていない児童がいるため、すべての児童が分かったと感じるために、教職員の授業力を向上させる必要がある。	4	○児童の評価が高いのでよい。 ○教員の自己評価と児童の評価との間に開きがないのがよい。	○教材研究の時間を確保し、日々主体性・意欲を引き出す授業を行っていく。 ○教職員の授業力を向上させる。
豊かな心	◎豊かな心を持つ児童の育成	○高屋東スタンダードの定着「進んで挨拶する児童の育成」 ・高屋東スタンダード強化週間の定期的な実施	・学校や地域においてははっきり聞こえる声であいさつをしている児童が75%以上（児童意識調査） ・だまって清掃できる児童が90%以上（児童意識調査）	94%	91%	113%	A	○児童意識調査の結果、前期に引き続き「自分からすすんでひびくあいさつをする」「だまって清掃をする」の項目で、肯定的自己評価が90%を超えていた。 ○「だまって清掃をする」の項目は低・中学年よりも高学年の方が肯定的な評価をしていた。高学年は全員が肯定的な評価をしていた。 ▲実際清掃中に話をしている児童は低学年が多いように感じる。しかし、学年が上がるにつれて黙って清掃ができているため、高学年の姿を見て低学年は成長していってほしい。	4	○児童から元気なあいさつをもらって気持ちがよい。 ○もう少しあいさつができる児童が増えてほしい。	○高学年を手本に、学校全体で指導を継続していく。
	○楽しく安心して過ごせる人間関係づくり	・児童の主体的な活動の場づくり ・いじめの早期発見・早期対応	・学校が楽しいと感じる児童が85%以上（児童意識調査） ・安心して学校生活を送ることができる児童が100%（児童意識調査）	96%	97%	106%	B	○児童意識調査の結果、前期に引き続き「学校生活で楽しみな時間がある」の項目で肯定的評価が96%を超えていた。 ▲「学校生活で楽しみな時間がある」の項目での肯定的評価が高かったが、数名は否定的な評価をしていた。校内で情報共有をし、対象児童へのサポートを組織的に検討し実践していく。 ▲学校生活に不安がある児童に対しても校内で情報を共有する。保護者と連携を密に取りながら複数体制で重点的にサポートを行っていく。	3	○学校生活で一番大切な項目が高評価でよい。 ○数名の否定的な評価をしている児童に対してのサポートに期待する。	○校内で情報共有をしながら、児童へのサポートを組織的に検討し実践を継続していく。
健やかな体	◎健康な児童の育成	○基本的な生活習慣の確立 ・保健指導、生活振り返りアンケートの実施	・学年に応じた就寝時刻（低学年21時、中学年21時半、高学年22時）までに寝る児童が80%以上（児童生活振り返りアンケート結果）	73%	73%	91%	B	○児童意識調査の結果、6年生については「22時までに寝る」の項目で肯定的評価が81%であった。他の学年よりも数値が高かった。 ▲全体数でみると、肯定的評価は73%と目標を下回った。また、低学年ほど肯定的評価が低い傾向にあった。 ▲生活習慣の確立には家庭との連携が不可欠なため、学校での児童の健康状態について家庭と密に連携していく必要がある。	3	○インターネットやSNS使用の低年齢化による課題が年々増加している。家庭との連携やスマートフォンについての調査等必要性を感じる。	○家庭との連携や中学校区でのスマイルチャレンジウィークの取組を積極的に行っていく。
	○運動の習慣化および体力の向上	・学級遊び、外遊び週間（大縄大会）を設定 ・体育科授業の充実	・体を動かして活動することが楽しいと感じる児童が85%以上（児童意識調査）	90%	93%	109%	A	○児童意識調査の結果、「体を動かして活動することが楽しい」の項目で肯定的評価が93%と、10月よりも上回った。 ○保健体育委員会を中心にドッジボール大会や大縄大会を企画・運営したことにより、外遊びをする児童が増えた。 △外に出て遊ぶ学年や児童が固定化されているため、継続的に外遊びを啓発する取組が必要である。	4	○児童の運動不足は課題である。外遊びの取組はとてもよい。	○児童の企画・運営を継続し、外遊びを奨励する取組を行っていく。
その他	◎働き方改革の推進	○児童と向き合う時間の確保 ・見通しのもてる計画、委員会、会議の効率的な運営	・「児童と向き合う時間が確保できている」と答える教職員が85%以上（教職員意識調査）	70%	64%	75%	C	○教職員意識調査の結果、「児童と向き合う時間が確保できている」と答える教職員は75%であった。 ▲分掌業務・学級経営等組織力の向上、時間外勤務を減少させ、働き方改革の推進し、働きやすい職場環境整備、児童と向き合う時間（授業準備・教材づくり等）の確保を進めていく。	2	○先生の疲労感は問題。難題ではあるが働き方改革にしっかり取り組んでほしい。	○働き方改革を推進し、働きやすい職場づくり・児童と向き合う時間の確保を組織的に 行っていく。

【自己評価】
A・・・100≦（目標達成） B・・・80≦（ほぼ達成） C・・・60≦（もう少し）
D・・・60＞（できていない） 達成度＝達成値／目標値

【学校運営協議会委員評価】
4・・・とても適切である 3・・・概ね適切である 2・・・あまり適切でない
1・・・まったく適切でない 0・・・判定できない